

棚橋やすゆき 後援会新聞

平成29年
11月発行第三版
発行元
棚橋やすゆき
後援会事務所

一歩また一歩、着実に

棚橋やすゆき後援会では、多くの方々にかい応援を頂き、日々励まされています。今回、初めて棚橋やすゆきさんを知った方々から、よく頂く質問の回答を、本紙で紹介いたします。

また、第一版で紹介した教育の課題や施策に関して、もう少し詳しく棚橋やすゆきさんに聞いてみました。

政治を志した背景は？

リーマンショックと言われる2008年の世界同時不況時、機械メーカーでエンジニアとして働いていたため、商品の性能に関係なく景気で売上げが左右されるのを経験しました。そこで、これからは経済的、経営的な視点も持ちたいと考え、その分野に優れた大学院へ私費で通い、MBAを取得しました。その後、経営コンサルティング会社で、地域企業の経営計画を立案したり、電力業界のベンチャー企業で、電気を地域で作る地域で使うスマートシティ事業を推進してきました。

しかし、こういった活動の中で、政策、法律、制度、行政対応などで、何度も悔しい経験をしました。ところが、先進的な首長がいる地方都市では、計画が円滑に進むことがありました。そのような首長と接する中で、自分自身が首長となり、岐阜を地方の成功モデル都市にしていきたいと考えるようになりました。

持続可能な地方都市？

地方都市として求められることは、まず持続可能なことです。現在では地方自治体の破綻が実際に起こり得ます。このため次の三つの基本理念にまちづくりを進める必要があります。

①地産地消 人類の過去の歴史はエネルギーや食糧、情報、人々などの資源格差による争いに溢れています。その中で地域で資源を産み出し、それを地域で最大限に活用される社会では人々の暮らしが向上し、より豊かで幸せな生活が送れます。

②生涯学習 激動する社会環境下でも、変化に適応することができた人々は豊かさを獲得してきました。技術革新やグローバル化がもたらす環境変化に適応するには、生涯勉強する姿勢や、これに心える環境整備が必須です。

③地域ブランディング 私たち岐阜市民は、自身を謙遜したり卑下したりしがちです。しかし、競争の激しいグローバル社会では、故郷や我々自身に自信を持ち、誇りを保つ事が非常に大切です。これを促す仕組みづくりが地域ブランディングです。

この三つの要素がそろえば、激しい社会環境の変化にも適応し、いつまでも存続できる豊かな地方都市になれると考えています。

所属政党？

現在、無所属で活動しています。これまで、中道、右派、左派など様々な立場の方々のお話しを聞く中で、同じ事柄であっても、其々の立場で捉える解釈や説明が異なっていました。これからの時代に、政党を始め、様々な国々、文



だまし絵

系理系の壁に囚われることなく、多種多様な価値観を理解した上での行政運営や意思決定が必要であると考えています。

宝つ子政策

岐阜市民の総意である「若い方々、働き盛りの方々を岐阜市に多く惹き寄せる」ために、次の二つを重点的に行います。

①若者世代、子育て世代の目線に立って人生の段階に応じた一連の施策を円滑に実施していく。

②一人一人の個性や専門性を伸ばしていく。

この宝つ子政策を、岐阜市の強みである「豊かな自然、のどかな風景、自然のめぐみ」という特色を生かして行います。(詳細は裏面)

棚橋やすゆき プロフィール 1980年7月4日 岐阜市生まれ岐阜市育ち
岐阜高校卒、米国オクラホマ州立大学航空宇宙機械工学部卒、ヤマザキマザック株式会社で新商品の立上げや量産化に従事。その後、オランダ王国エラスムス大学ロッテルダム経営大学院にて経営学修士(MBA)を取得。アクセント株式会社戦略グループにて、企業や官公庁の戦略立案や実行支援を担当した後、株式会社エナリスで電力の地産地消の事業開発に従事。現在は、株式会社アンバサダーを創業し、農業の六次産業化を推進。



子育て世代目線で応援

現在は、多くの若い方々はお金が無いという理由で、結婚や出産を先送りしています。そうしている間に、親が歳をとって今度は親の面倒を見ないといけない、そんな人が増えてきているようです。また子どもを持つための治療や育てるためのお金がたくさん掛かるのに、そのお金を稼ぐ働き場所がなかなか見つからないといった人もたくさんいます。

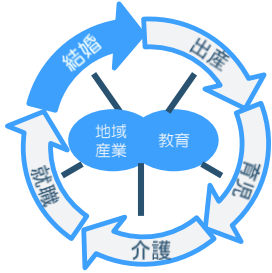
これからの時代では、若い世代、つまり働き盛りの世代が、介護、仕事、子育ての全てを同時に行わなければいけなくなっていくます。時間に余裕がないと心にも余裕がなくなるため、ちょっとしたことでますます大きな喧嘩やトラブルになってしまいがちです。

そのような中で子育て世代を応援するためには、子育てをしている人の目線に立ち、それぞれの人々の必要な時期に、市役所や企業が協力して、子育ての障害になるものを取り除き、支援をしていくことが必要です。忙しい若い人々、働き盛りの人々が、安心して結婚し、子どもをつくり、子育てをしながら働ける、介護ができる、再就職も簡単にできる仕組みづくりが必要です。このような子育て世代におもてなしをしていく宝つ子政策であれば、若い方々、働き盛りの方々を、岐阜市に多く惹きつけられます。

これまで

結婚 出産 育児

これから



行政支援

就労支援
→ 結婚祝い金
駅前託児所

個性を伸ばす教育

「岐阜市で学ぶ大学生の半数が卒業後は岐阜市外で働きたい」、「岐阜市から転出した20代、30代の半数が責任や興味のある仕事につける職場を求めて市外へ出た」ことがアンケートでわかりました。岐阜市で学んだ事を生かして、岐阜市で働ける環境を整える事は、すぐにもできないといけません。しかし、それでも大都市や業界の中心地でしか学べないことも多いです。そこで、一旦は出て行った後でも、子育てをするためや、特技を生かした仕事をするために、もう一度岐阜に戻ろうと思ってもらえるよう、個性を伸ばし専門性を高めていく教育を推進していきます。また、今後、若い人々が減り、高齢者が増えてきます。その中で、ロボットに頼ることや、国外も含めて他の地域の人々を呼び寄せるための教育を取り入れることも必要です。

このために次の三つを教育に取り入れます。

- ① 芸術、スポーツ、科学など、どんなことでも専門性や特技を伸ばす教育を進めます。自分の特技や特徴を生かし、好きな事を更に伸ばしていきます。また、専門性を高めるための教育を通して、更に集中力、持久力を高め、専門性に合った身体作りを進めていきます。
- ② 発信する力を鍛えます。岐阜にはあまり知られていない良いものが沢山あります。「創り上手の売り下手」と言われるように良さが上手く伝わっていないのです。どうすれば相手に魅力を伝えられるか発信する力を鍛えます。
- ③ 外国語を更に鍛えます。これは海外へ岐阜の魅力伝えるためだけでなく、海外から旅行者や働き手を集めるためにも役立ちます。

この三つにより、自身が学んだ事や、身に付けたことを生かして、責任や興味がある立場に就き易い環境を整えます。

ご意見、ご要望などが有れば、ご記入ください。
ご記入後、以下の宛先にファックス
又はメールでお送りください。

Twitterで
フォロー



LINEに追加



【後援会討議資料】

棚橋やすゆき 後援会事務所 岐阜市清住町1丁目24番地1階

電話・ファックス：058-242-9273

メール：info@tanahashi-yasuyuki.com

この紙は再生紙を使用しています